

2021年10月1日

「第1回おおさき作文コンクール」審査結果について

特定非営利活動法人古川学人  
理事長 佐藤 俊明

NPO 法人古川学人主催「第1回おおさき作文コンクール」は、大崎市内10の学校の生徒の皆さんより全51作品のご応募を頂きました。審査委員会による厳正なる審査の結果、下の通り各賞が決定いたしましたので、ここに公表いたします。

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

①高校生の部

最優秀賞 「歴史の真価」／遠藤空（古川黎明高等学校1年）

②中学生の部

最優秀賞 「ジュニアリーダーが紡ぐ未来」／佐藤菜々夏（鹿島台中学校3年）

優秀賞 「どうして道が斜めなの？」／遊佐美結（古川中学校1年）

優秀賞 「未来へつなげたいもの」／高橋里穂（三本木中学校2年）

奨励賞 「私たちの誇るべき大崎耕土」／今野希星（岩出山中学校2年）

③小学生の部

最優秀賞 「未来の鳴子 よりよい町へ」／遊佐椿乃（川渡小学校6年）

優秀賞 「私が住んでいる地域の歴史」／森美佑希（岩出山小学校6年）

優秀賞 「明るい未来へ」／山口柊真（古川第二小学校6年）

奨励賞 「松山、大崎の歴史 大崎市松山の人口」／田村虎太郎（松山小学校5年）

④大正デモクラシー賞

「大切なもの」／遠藤翼（古川黎明中学校2年）

### ①高校生の部 総評

高校生の部は応募者 1 名だったが、審査員の多数が最優秀賞にふさわしいとの審査結果だった。最優秀賞の作品は、歴史は教科書を暗記するのではなく、体験し楽しみながら学ぶことで真価が伝わるのだということを、具体的な例や筆者自身の取り組みを交えながら論じた点を評価した。

### ②中学生の部 総評

中学生の部は応募総数 46 名と各部門中最多であり、レベルの高い作品が揃った。審査にあたっては文章力だけではなく、地域社会や歴史・文化について、その発展や継承のために何を行っていくべきか、また自身はその中でのどのような役割を果たしたいと考えているかを、具体的に論じている作品が高く評価された。選外とするには惜しい作品も多く、最優秀賞、優秀賞の他、1 作品を奨励賞とした。

作品数が多く各賞の候補も分散した中で、最優秀賞については審査員 4 名中 3 名が一致した。ジュニアリーダーという筆者自身の経験を元に、様々な角度から地域の現状を見据えつつ未来への具体的な提案にまで踏み込んだ点、そして地域を担うという強い決意を感じさせる筆致で最後までまとめ上げた文章力を評価した。

### ③小学生の部 総評

全 4 作品の応募があった。審査にあたっては客観的な視点を持つことができているか、具体的な結論を述べることができているかなどの点で各作品の評価が分かれた。小学生の部であることから、文章力に加え、自分の考えを述べることができているか、調べることができるかなど、作文の基礎的な部分を重点的に評価し、最優秀賞、優秀賞の他、1 作品を奨励賞とした。

最優秀賞作品は審査員 4 名中 2 名が一致。また、他 2 名も同作品を優秀賞と位置づけ高く評価した。筆者自身が住む観光地・鳴子の現状について、長所・短所を客観的に見据え、改善のために筆者のできることを具体的に提案している。身近な人の声などを効果的に織り交ぜ、理路整然とした説得力のある文章運びができている点も高評価だった。

### ④大正デモクラシー賞 総評

「独自の民主主義的な視点で取り組んだ作品」を全応募作品の中から 1 作品選出する大正デモクラシー賞には、展示 SL の撤去という問題について自ら調べた上で、多様な意見が存在することを発見し、さらに具体的な問題解決の手段を提案するにあたり、解体か保存かという二項対立ではなく、双方の意見を尊重することが大切ということを強調した点を高く評価し、「大切なもの」／遠藤翼（古川黎明中学校 2 年）を選出した